

環境県民フォーラムだより

VOL. 47 2021年10月15日 発行



新たな奈良県環境総合計画、始動！

「奈良県環境総合計画」をご存じですか？

この計画は、社会や経済の情勢変化に対応しつつ、誰もが安心して快適に暮らすことができる持続可能な地域づくりを進めるため、景観・環境面から、県民、NPO、企業・団体、行政などの様々な主体が積極的に連携・協力し、中長期的に取り組む指針として、奈良県環境基本条例第10条などに基づき、奈良県が示しているものです。

今年3月、前計画が2020年度で期間満了となったことに伴い、新たな奈良県環境総合計画が策定されました。

2021年度から2025年度まで適用される新たな環境総合計画の気になる内容について、簡単にご紹介します！

目指す環境像

新たな奈良県環境総合計画では、私たちが目指すべき未来の奈良県の姿を次のように掲げています。

～私たちが目指す奈良県の姿～



澄んだ空に、雄大な山並みと手入れの行き届いた森林の緑が映えます。山間部の自然は、きれいな空気をつくり出し、山々に蓄えられた水は、川から海へと、清らかで豊かな水流となって、人々を潤し、さまざまな生物を育んでいます。



大和青垣や大和三山などの山々は、里山・田園風景と相まって、都市の遠景となり、世界遺産や国宝などの歴史的建造物の背景となって、まほろばの国にふさわしい麗しいたたずまいを形づくっています。



まちなかは、花と緑にあふれ、歴史的風土と調和のとれた美しい都市景観と沿道景観に、住む人、訪れる人が和らぎを感じます。



パリ協定が目標とする温室効果ガス排出実質ゼロに向けて、本県の豊かな「森林資源」や「自然エネルギー」を最大限活用しながら、「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」の取組が相乗的に図られ、持続可能な脱炭素社会の仕組みの構築が進んでいます。

人々は、地球環境に配慮する知恵や行動力にあふれ、これから時代に求められる「きれいに暮らす」スタイルを追及、共有しながら、主体的かつ積極的に本計画が掲げる基本理念の実現に向けて取組み、多様な主体が連携・協働する“オール奈良”によって全県的な実践活動へと広がっています。



※の画像は奈良県景観資源より

基本理念

本計画では、大気、水、騒音、廃棄物などの「生活環境」、森林、河川や生物多様性などの「自然環境」、身近な緑やまちなみなどの「快適環境」のほか、これらと相互に関連する「地域環境」や「地球環境」を対象としています。その上で掲げる基本理念は次の通りです。

奈良ならではの「豊かな自然と歴史との共生、美しい景観と持続可能な暮らしの創生を目標に、「奈良新『都』づくり戦略2020」（令和2年2月策定）を旗印として、自然・景観・生活環境など環境分野に係る施策を総合的に展開させることにより、愛着と誇りの持てる「きれいに暮らす奈良県スタイル」の構築・定着を目指す。また本計画では、2050年までに二酸化炭素等の温室効果ガス排出実質ゼロにする脱炭素社会の構築を目指す。

施策体系

環境像や基本理念の実現に向けて総合的・計画的に推進するため、計画では施策の8本柱を掲げています。奈良県環境県民フォーラムも、この8本柱による施策の推進にあたり、様々な分野で大切な役割を担っています。

きれいな環境の中で、誰もが快適に暮らせる理想の奈良県を目指し、オール奈良による本計画の新たな取り組みは、今始まったばかりです。

施策体系（8本柱）の概要

1. 森林環境の維持向上

森林と人とが良好な関係を築きながら、森林が県民の貴重な財産として引き継がれることを目指します。



2. 健全な水循環の構築

河川等の水質の改善、きれいな水辺空間づくりなど、源流・上流域から中・下流域まで、「健全な水循環」の観点で一体的に取り組みます。



3. 景観の保全と創造

歴史文化遺産や豊かな自然と共に、四季折々に彩られる景観を守りながら、国際的な歴史文化交流拠点としてふさわしい景観を創り育て、未来に繋げます。



4. 脱炭素社会の構築

2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指し、再生可能エネルギーの利活用を図ると共に、「奈良の省エネスタイル」の定着や、二酸化炭素の吸収源となる森林の適切な整備・保全に取り組みます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

各柱のSDGs（持続可能な開発目標）における位置づけは以下の通りです。

出典：国際連合広報センターWEBサイト

5. 循環型社会の構築

県民一人ひとりが日々の暮らしの中で、資源やエネルギーを大切にする「環境に配慮したライフスタイル」の促進を図ります。



6. 安全な生活環境の確保

心身共に健康で、快適・安全・安心な暮らしができるよう、私たちの身の回りを取りまく生活環境を保全するための対策を講じます。



7. 生物多様性の保全

豊かな生物多様性の恵みを将来の世代に引き継いでいくため、「生物多様性なら戦略」に基づき、多様な主体と協働して良好な自然環境を保全します。



8. 人づくり・地域づくりの推進

景観・環境づくりを推進するため、多様な主体が互いに連携・協力するパートナーシップの形成を促進し、参加と協働による取り組みを推進します。



「やまと菜の花ねっと」

~菜の花だより・橘だより~

奈良追分コミュニティ

4月10日(土)、天空の里追分で、菜の花まつりを開催しました。当日は、奈良ストップ温暖化の会、奈良まほろばシェアリングネイチャーの会など、約150名の方が参加。会場は、菜種油を使った菜の花天ぷらのふるまい、大和橘のシフォンケーキやクッキーの販売などで賑わい、子ども達は、NiziUダンスや、凧揚げ、自転車発電などを楽しんでいました。また、視覚障がい者の演奏家「万華鏡」の演奏は、菜の花や大和青垣をバックに、インスタ映えしていました。



▲インスタ映えした「万華鏡」の演奏

▲晴天の下、満開の菜の花に囲まれて



▲子どもたちと脱穀作業

山の辺の道ファンクラブ

4月に菜の花が咲き終わり、菜種を5月下旬に刈取りをして、乾燥後の6月5日(土)の朝から、会員の皆様と天理市内の児童らを交え、脱穀作業を行いました。児童たちは昔ながらの脱穀機(発動機で駆動)を使用しての作業を興味深く観察していました。

皆さんの汗ばむ作業のおかげで前年度よりも約30kgも多く105kgの種を収穫する事ができました。



▲脱穀機での作業に興味津々

橘プロジェクト

(活動団体：なら橘プロジェクト推進協議会)

「橘プロジェクト」が今年で10年目を迎えました。

奈良市や大和郡山市で始まった橘の植樹数は、今では約3000本となっています。特に、柑橘類の栽培に適した山の辺の道沿いでは順調に生育し、果実の収穫量は県内で1トンを超えてきました。

また、県内の神社やお寺での植樹も広がりました。

お寺では、西大寺清浄院・法華寺・大安寺・元興寺・橘寺・唐招提寺・興福寺・法隆寺・東大寺、神社では菅原天満宮・薬園八幡神社・奈良県護国神社・穴師坐兵主神社・等彌神社・手向山八幡宮など、数十か所になります。古来、橘にゆかりのある寺社も多く、どの寺社からも植樹を大変喜ばれています。

今後も、香り高い大和橘の植樹や栽培を続けていきたいと思います。



▲橘の植樹した寺社は数十か所に

▲橘の植樹した寺社は数十か所に



▲橘の植樹した寺社は数十か所に

葛城フィールド

(活動団体：エコ葛城市民ネットワーク)



▲今年も行われた出前講座

今年度は、菜の花プロジェクトをテーマとした「出前講座」を市内小学校において実施しています。

5月には、新庄、忍海、磐城小学校で「菜種の刈り取り」を行いました。児童たちは自分のハサミを使って力一杯枝を切るなど、楽しんでいました。

雨で中止となった新庄北、當麻小学校では、冊子を使った環境教育と、予め刈り取っていた菜の花に触れる授業を行いました。菜の花のサヤを初めて触る児童が多く、興味津々に見入っていました。

6月には、NPOが刈り取りした菜の花の「種落とし・搾油」を児童たちが体験しました。

新型コロナウィルスにより延期等の影響も出ていますが、市役所、NPO、小学校が連携し、工夫しながら実施しています。